

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	平成27年度第4回（仮称）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会		
開催日時	平成28年2月18日（木）午前10時00分から午前11時50分		
開催場所	寒川町消防庁舎 3階 講堂		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>&lt; 委員 &gt;                  梅村仁（委員長）、田中雄介、金子一茂、矢澤茂、鈴木潔、佐藤清、矢野覚、豊田敏樹、西郷公子、桑野靖男、前田久子、牧戸雅子</p> <p>（欠席者）                  近藤祐幸（副委員長）、斉藤正信、豊田大知</p> <p>&lt; 事務局 &gt;                  副町長：木内礼次郎                  企画政策課長：深澤文武、企画行革担当副主幹：青木裕昭、同主査：三澤忠広、吉田慎也、同主任主事：遠藤孝、鈴木俊輔</p> <p>※ 傍聴者3名</p>		
議 題	(1) 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について		
決定事項	議事-(1) 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>○開会                  議事までの間、深澤課長が司会進行</p> <p>○議題（議事進行：梅村委員長）                  （梅村委員長）議題に入ります前に、今回の議事録承認委員の確認についてですが、承認委員については、「名簿順」ということになっております。前回は「鈴木委員」にお願いしましたので、その次ということで、「佐藤委員」にお願いしてよろしいでしょうか。</p>		

(佐藤委員) 承知しました。

(梅村委員長) よろしくお願ひ致します。それでは、議事を進めてまいります。議題1 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について事務局から説明をお願いします。

<事務局から

資料1 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)

資料2 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略～アクションプラン～

資料3 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略体系

資料4 総合戦略施策別事業費の概要

について概要を説明>

### 【寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)】

(梅村委員長) それでは皆様からご意見等いただきたいと思いますが、最初に総合戦略(案)、その後アクションプランについて進めていきたいと思ひます。

それでは、総合戦略(案)の第1章について、ご質問ご意見等ありますでしょうか。無いようですので次に第2章ですが、基本目標ごとにお聞きしたいと思ひます。

基本目標1の産業分野についてですが何かありますでしょうか。

私から1点お聞きしたいのですが、説明の中で寒川町と相模原市が連携するとのことですが、市と連携するのですか。それとも相模原市は財団が活発だと思ひますがそちらと連携するのですか。

(事務局) 基本的には、寒川町と相模原市が対等に行うことになるのですが、販路の部分では、その中核の場として公益財団法人相模原市産業振興財団が大きな役割を担うことになってくると思ひます。また、さがみはら産業創造センター(SIC)では産業用ロボット導入に関する活動の場になります。ですので、相模原市と産業振興施策を通じて様々な議論をしまして、その活動の場としてセンターが中心になると考えています。

(西郷委員) ロボットに関して省人化の先進的な取り組みとのことですが、先進的というのは何を指しているのですか。

(事務局) 只今、さがみはら産業創造センターの話をさせていただきましたが、この中に、新たな産業ロボット製造業の活性化を一番の目的としましたロボット導入支援センターというものが昨年7月に設置されました。その活動内容としては、中小企業向けにロボット導入の支援を主目的としてお

り、見て操作することが出来る体験型の展示から導入事例紹介や操作する人材を育成するロボットスクール、また、製造を自動化するコンサルティング及び導入後システムを開発するための設備開発サポートなどが実施されています。寒川町については、企業ヒアリングを行った結果、人材不足や生産効率の向上などが課題としてありますので、寒川町でこの支援を行うにあたり、単独では中々行うことが難しいことから相模原市と連携し取り組んでいきたいと思っています。なお、この中小企業への支援事例としては全国に2件あり、北九州市と相模原市で行っております。かなり先進的な技術を持っている施設ですので、この施設の活用を施策に取り入れたいと思い、相模原市と協議を進めてきたところです。

(西郷委員) つまりロボット導入支援センターが先進的ということで、ロボットを導入出来ない中小企業を支援するセンターがあるということが先進的ということですか。

(事務局) そうです。このことで皆さんが思われることは、寒川町にそのニーズがあるかどうかだと思います。町としては、そのニーズ把握が重要だと思いますので、相模原市といくら連携をとってもそういったニーズがなければ意味がありませんので、今年度、相模原市がニーズ調査を行いますので併せて寒川町内の企業についても行う予定となっております。そのニーズ把握をした結果、ロボット導入支援センターを活用できればと考えています。

(佐藤委員) 経済産業省にも参画してもらおうとの話があったのだが、具体的に財政的な支援を含めた支援なのですか。それと、相模原市との関係についてですが、ロボット特区という意味では、相模原市と寒川町が関連しますし、さがみ縦貫道あるいは相模線で繋がっているということで、そういった形での自治体間の連携というものは良いことだと思います。そこで既に相模原市と何らかの交流なり組織が出来ていたのですか。出来ればきっかけなどを含めてお聞かせください。計画上の位置づけで固有名詞が入るとなると相模原市との交流があつて、それを前提に書かれているとは思いますが、その2点についてお教えてください。

(事務局) 経済産業省の財政的な支援については、エコノミックガーデニングに対する支援は基本的に考えられないと思っています。ただ、これから発生する企業支援にあたっては、経済産業省ではものづくり補助金などの制度が構築されていますので、そういったものを町として企業支援をする中でどのように補助金申請をして、それを獲得するのか、そういったノウハウを積み上げながら経済産業省にも相談をして、支援者と経済産業省を繋げていければと思っていますので、色々な角度で経済産業省から助言をい

ただき、経済産業省が行うこれからの制度についても積極的に町へ展開していきたいと思っています。

相模原市との連携の状況については、現在、相模線複線化期成同盟会で連携をとっており、相模線を複線化にしようという中でこの期成同盟会が設置されております。また、神奈川県都市マスタープランでも相模原市が北のゲート、寒川町が南のルートという位置づけがございます。そういった中でさがみ縦貫道や相模線で繋がりを持つ中で、南のゲートである寒川町が北のゲートの相模原市と連携するのは大きな意義があると思っております。

(矢野委員) 今の相模原市との連携について、企業側のニーズという話がありました。本日、工業協会の協議会がありまして、横浜銀行ではこのロボット導入支援センターを支援しており、センター概要について説明出来る時間をいただきましたので、企業側へ説明することになっています。寒川町のニーズというところで喚起する意味も込めまして、地方創生で町が取り組むということを説明したいと思っております。

(事務局) 先ほど、経済産業省との連携の中で、経済産業省の方と相談をさせていただきまして、今後については、経済産業省の予算について、寒川町の工業協会の中で説明をしていただく機会を作ることにしました。経済産業省がどういった補助金があり、制度の内容について工業協会の皆様に知ってもらうことが重要だと思っておりますので、いくら制度を作っても周知されなければエントリーされませんので、そういった機会を今後作っていくということになりました。今年度については、経済産業省にお願い致しまして3月中には開催される運びとなっております。また、翌年度以降も同様に進めていきたいと思っております。

(矢澤委員) 今回検討されている中で、背景として人口減少が大きな問題となっていることや、高齢化率が非常に速いテンポで進んでいくことを心配されているのだと思うのですが、人口減少に歯止めを掛けつつも、一方で高齢化に対して、この総合戦略ではどういった施策をしていくつもりなのかと思います。高齢者が増えていくことは間違いのないので、それに対して、いきいきとこの町が活性化して、元気で働き続ける社会を作るためには、高齢者に対して雇用の機会を設けて、元気に働いていただける機会を作っていくということが我々企業にとっては非常に重要な問題となっております。前回は申し上げたのだがその辺についてはどう考えていますか。

(事務局) 今の質問については極めて重要なことでありまして、今回の地方創生というものは、今後減り続ける人口にどう余勢を駆けていくかということが大きな主題となっておりますので、町として国の4つの方針に従いまし

て、地域特性を踏まえながら検討したところであります。そうした中では収入を得る場としての企業が活性化していかないと労働・雇用の場がないということになりますので、企業支援をしっかりとしていきたいと思っています。併せて施策間の連携ということになりますが、4つの施策である、人の流れでは寒川町を知ってもらい、移住していただくといった仕組みが必要であると考えています。そういった中では寒川町に移住することをおすすめ出来るようなタウンセールスを展開するとともに、やはり移住するにあたっては、子育て世代ということがありますので、子ども達を育てる環境が整っているかどうかについても併せて考えていかなければならないと思っております。それが基本目標3ということで「子育て世代が安心して子どもを産み育てやすい環境をつくります」としております。そこでやはり労働力というものをどう町内に確保するかということで、寒川町において結婚・出産・子育て・学力向上といったものを取り揃えて従業員の確保を図っていききたいと思っております。実際のところ、平成31年まで寒川町は徐々に人口が増えている状況がありますけれども、現在出生数も少なく、高齢化の時代になるのは必須な状況ですので、それに対応すべく4つの施策の連携をしながら人口減少に対応していきたいと考えています。

(金子委員) それぞれの目標に目標値が設けられていますが、この目標値の算出の基準と言いますか、数字については可もなく不可もなくというような数字に感じるのですけれども、その算出の基準というか根拠を教えてください。

(事務局) 基本的な考え方としては、現状値を勘案しまして上昇傾向なのか、下降傾向なのか、現状維持なのかを見まして、事業の投入量によりその傾向に沿って、改善または上昇していくような指標を設定しています。例えば、基本目標1の数値目標ですが、町内企業等の従業員数と年間商品販売額については、現状値と目標値が同じとなっており、目標値は「以上」と設定しております。こちらについては現状が下降傾向にありますので、そのことを勘案しまして将来的には現状を維持しながらそれ以上のものを目指すという考えの元で設定しています。

(金子委員) 現状維持であれば、これから行う施策や事業が反映されるんですか。現状維持だとマイナスのイメージがあると思います。

(事務局) 先ほど説明したのですが、人口が減るということは、即ち労働人口が減ることになります。現在約4万8000人寒川町にお住まいの方がいらっしゃいますけれども、2060年には推計で3万6000人になってしまいます。そこで寒川町人口ビジョンの中では4万4000人を目標としておりますので、人口が減る中で確実に労働力が減ることが見えていますの

で、そういった中で労働力を守るということが、本来であれば下がるものを現状維持にするということですので数字的にはプラスになるということになります。

(金子委員) このように数字だけ示されてしまうと一般の方は説明されないと分からないと思います。

(事務局) 何に基づいてこの目標値が設定されたのか分かるようにした方が良いでしょうと思いますので、意見を持ち帰りまして分かりやすくなるよう検討したいと思います。

(梅村委員長) 続きまして、基本目標2について何かございますか。

7ページのタウンマーケティング図はこれから絵を入れるのですか。

(事務局) 最終的にはイメージ図を掲載します。

(梅村委員長) 続きまして、基本目標3について何かございますか。

この分野については、これまでの委員会でもたくさんご意見いただいており、特に重厚になっているのかと感じています。

(金子委員) 10ページ学力の向上についてですが、良く耳にするのが他の市町村に比べると先生の資質が少し劣っているのではないかと聞くことがあります。その辺が原因で、子ども達の学力が中々上がっていかないのではないかと思います。そこで先生方の人事交流は、寒川町として積極的に支援をしているようですけれども、他の市町村から寒川町に来ていただけないということも聞くのですがそれに対応するような考え方はありますでしょうか。

(事務局) 総合戦略の中には、教職員の資質向上については入っておりませんが、現状、寒川町の対応としては、今年度から寒川町教育委員会と茅ヶ崎市教育委員会が連携しまして小・中学校の各1校、人事交流をしております。要は、茅ヶ崎市の先生が寒川町に来ていただいて、寒川町の先生が茅ヶ崎市に行っております。そういった中でお互いの教育現場や教育指導方針などを学びあいながら触発している状況です。この人事交流については、かなりの成果を上げておりまして、先生同士が刺激になっているということで、町としても教職員の人事交流を通して、寒川町の小さな世界だけではなくて、他の地域での教育のあり方を学んでいただくということが必要だと思っておりますので、それに対して現在取り組んでいるところです。教職員の資質向上については、子どもの学力だけではなくて、教職員に問題があるのではないかという課題もあると思います。資料4になりますが、教育フロンティア専門指導員の配置ということで事業を予定しております。この事業は、教育ニーズへの対応と教職員の資質向上のために新たに指導員を配置するもので、学校での今の課題として、若い先生が多

くなり、これまでの経験を活かした先生が少なくなっているということと、様々な教育ニーズがあり、それに経験がないために中々対応が図られていないとの現状がありますので、そういった若手職員の資質向上や育成を含めまして、経験を持った教職員のOB等を新たに学校へ配置して資質を向上させようという取り組みとして考えています。また、若干遠回りになりますが、学習環境の改善として、中学校の普通教室にエアコンを設置していこうということがあります。これについては当然子ども達健康上の問題等への対応ということがありますけれども、大人として見れば先生も寒川を選んでもらうという意味では、寒川町内の学校に勤める職場の環境が良いということで良い先生を呼ぶ効果も若干狙いとしてはありますので、その2つが教職員の資質向上というところでは考えているところです。

(鈴木委員) 教職員の資質向上についてですが、身内に中学の教員がいるのですが、1日の生活を見ていると部活の顧問をしていると朝練から出て、放課後練習に出て、それから次の日の授業の準備などをしてしていると21時、22時、遅いときは24時頃まで仕事をしている時があります。こうなってくると部活というのは、子ども達にとっては体験としては非常に有意義なものだとは思いますが、それに対して教職員が部活に係りっきりになってしまうと本末転倒ではないですけれども授業が疎かになってしまうということがあると思います。教員がもっと多ければもっと緻密な教育が出来るのだと思うのですが、部活を教える人がボランティアなどでいれば、もう少し教職員の仕事の軽減が図られるのではないかと思います。教職員の環境を整えてあげることも教育レベルの向上に繋がるのではないかと思いますし、また少人数学習をしているとは思いますが、やはり生徒間の学習能力のバランス等を考えると教員の配置を考えると仕事の分散等を考えていただければと思います。

(梅村委員長) そういった想いはたくさんあると思います。財政的に難しい部分もあるとは思いますが、理想という言葉は端的に言うのは駄目だとは思いますが、そうあるべきだとは思っています。

(事務局) 現在、教職員の多忙化ということが全国的に問題になっています。寒川町についてもそういったことに着目して、町長からも教職員の多忙化を解消して、生徒とふれあい時間を増やすという方針が出されております。そうした中で、やはり部活が一番時間をとられているということがありますので、町では地域の先生を取り入れておりますが、地域全体でそういった学校教育を支える仕組みを考えていかななくてはならないと思います。また、少人数学習についても資料4の学力向上推進事業の中に少人数

学習の充実ということで取り組んでいくことを考えています。それ以外にもこちらには記載されておきませんが、学校支援員という制度を導入する予定でいます。この支援員については、教職員の多忙化をどう解消していくかをテーマとして、学校内でどのような活動をするか現在も検討をしているところではありますが、このような支援員制度についても考えておりますので、このようなことを通して教職員の時間を作り、資質向上を狙っていきたいと思っております。

(前田委員) 教職員の人事交流については茅ヶ崎市と寒川町で行っているとのことですが、少し範囲を広げ、藤沢市や平塚市などとも先生方が異動できる場所を作っていただきたいと思ひます。入試体制なども変わってきているのでそれに併せて教職員と町教育委員会が折衝をしながら範囲を広げていただければと思ひます。それと (2) 目指すべき基本的方向の重要業績評価指標で「幼児に対する災害の備えをしている子育て世帯の率」とありますが、現状値が50%を切っていて目標値が62%となっています。この目標値については100%にするべきではないでしょうか。これは大事なことだと思ひますし、災害があってもすぐに対応出来るようなことをして、徹底していかなければいけないのではないかとと思ひます。

(事務局) 人事交流について、寒川町の人事につきましては、町の教育委員会が人事権を持っているのですが、基本的には神奈川県教育委員会と調整しながら決めることでもあります。教職員は県職員となりますのでどこに配属されるかは県の教育委員会と調整しなければなりません。茅ヶ崎市との人事交流については市町の教育委員会で調整して行っておりますが、それ以外にも湘南三浦ブロック内での人事というのを県教育委員会が行っております。しかし、このような人事交流システムがあるのですがうまく動いていないのが正直なところだす。やはりそこには町として少しメスを入れていかなければいけないだろうと思ひますので、県教育委員会に話をしなければならぬと思ひます。いろいろな範囲を超えて交流することについては十分認識しておりますので、調整をしながら今のご意見について取り入れられるよう努力していきたくと思ひます。次に、幼児に対する災害の備えについてですが、目標値を100%にすべきということだすけれども、正にそのとおりだと思ひます。ただ、理想は100%なのだすですが、目標にするからにはその現実を見る必要もあることから、現状が47.4%なので目標を62%と算出したところだす。

(梅村委員長) 続きまして、基本目標4について何かございませうか。

(前田委員) 寒川駅北口に交番を設置とありますが、駅前に交番があるのは大変助かるのですが、寒川駅南口の防犯対策は考えているのでしょうか。



(事務局) 南口の防犯対策についてですが、北口の土地区画整理が終わりに近づいておりまして、これから人の流れが多く出てくるだろうという中で一之宮交番を移設して寒川駅北口に配置することになっております。南口の防犯対策については県警とも調整させていただき、防犯連絡所のようなものを設置することも検討していきたいと思っております。今の段階でお答え出来ない部分もありますので、担当課に確認し、お知らせ出来ることがありましたらまたお知らせしたいと思います。

(梅村委員長) 以上で総合戦略(案)については終了させていただきます。

### 【寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略～アクションプラン～】

(梅村委員長) 次に、アクションプランについてご意見等いただきたいと思えます。こちらにつきましても基本目標ごとに質問をいただきたいと思えます。最初に基本目標1で何かございますか。

私から1点質問ですが、施策1でエコノミックガーデニングを進めていきますということが書かれているのですが、既に金融機関とは調整されているのですか。

(事務局) 我々の目的は企業へどう支援していくかというところにありますので企業からの要望によって我々も変わっていかねばいけないと思っております。具体的な内容については今後作っていくこととなりますので金融機関との調整はまだしておりません。金融機関との調整内容としては単純に考えれば融資などの財政支援があるかと思いますが、企業のニーズがどこにあるのか、やはり中心になる方々と考えていかねばならないので、そこは柔軟に対応していきたいと思っております。

(矢野委員) 現在、打ち合わせ等を行っていないのですが、金融機関として積極的に取り組まない理由はないと思っておりますので、財政支援等について考えていきたいと思っております。

(金子委員) 企業訪問を通じた相談支援とありますが、毎年行った訪問企業数や相談内容というのは開示していただけるのでしょうか。

(事務局) 経営に通じた専門家として、地域経済コンシェルジュを来年度から雇用する予定となっております、この方は年間150日以上町に勤務していただくことになるのですが、その方が基本的に企業訪問の中心となります。町企業のカルテを作成しながら、どのような要望があつて、ニーズがあるのかを把握し、それが先ほど説明した金融機関や私どもに繋がっていくかどうか、色々なやり方があるかと思っておりますので、そういった仕組みをこれから

構築する訳ですが、今後、実施結果を皆さんにお知らせしたいと思っております。ただ具体的な企業として秘密事項等もあるかもしれませんので、概略等でお知らせすることになると思います。

(梅村委員長) 続きまして基本目標2で何かございますか。

寒川町として観光に特化した係や担当というのは来年度以降、行政の組織として設置する予定はありますか。

(事務局) 現在、観光を担っているのは、産業振興課となっております。この課は、農政・商工業・観光・労政と幅広く担当しておりますので、来年度につきましては、これから議会等へ説明することになるのですが、この産業振興課を分割する予定としております。第1の矢として、産業の活性化ということに着目しなければなりませんので、企業支援を専門とする担当は作る予定になっています。ただ、観光に特化した担当を作る予定は現在考えておりません。観光については、観光協会の補助金を増やしまして、観光協会の組織を強化しておりますので、そういった中で強化した観光協会と連携しながら観光事業を進めていきたいと考えています。

(金子委員) 商工会ではメイン事業ということで観光拠点づくりに向けて色々な形で動いております。昨日も5者会議というものがあまして、寒川神社をうまく活用させていただきまして、年間200万人来る観光客がお金を落とす場がないといった部分を何とかならないかということで産業振興課とも検討しているのですか、今の産業振興課を分割しなければいけないというのは、農地は農地で確保しなければいけないということと、我々はこれとは逆に農地から外してもらいたいという話をしていきますので、そういった部分で分割するという事なのでしょうか。

(事務局) 今の産業振興課については、農政をやりつつ観光を振興すると立場で相反する部分があるのですが、中々難しいところがあり、そうした中で我々も色々な場面の中で農用地についての考え方、寒川町は他の地域と比べて農用地の指定がかなり多いという中で、それを今後どう扱うか農振整備計画も見直す予定となっておりますが、人口減少が進む中で集約型社会を進めていくという国の方針の中で農用地除外というのはかなりハードルが高いので、これをどうクリアするかというのが難しい状況にあります。今後は農用地のまま、どう活用出来るかなど考えていきたいと思っております。今現在は、5者協議の中で話し合いがされていますが、今後は企画部門も参画しながら今後も話し合いが出来ればと思っておりますので、観光によって税金がどのくらい落ちるのかを判断しながら、そういった取り組みをすべきか考えなければならないと思っております。経済波及効果も調査しましたのでそれらを踏まえ、総合的に考えていきたいと思

います。

(梅村委員長) 続きまして基本目標3について何かございますか。

(糸野委員) 資料4を見ると、総事業費が記載されており、一番ウエイトが高いのが基本目標3になっていまして、この各事業を見ると中学校の空調機設置に係る費用が一番大きいように数字としては見えるのですが、実際の工事が平成29年度となっております、そうするとこの資料4の総事業費というのは平成28年度の総事業費という見方で見ていたのですが、この平成29年度に行う空調機の工事費用というのは、この総事業費に含まれていないということで良いのでしょうか。

(事務局) 資料4の上段に記載している事業費3億4098万1000円については、平成28年度の総事業であることから、平成29年度に実施する工事費については除いた金額となっております。

(糸野委員) 基本目標3で事業費が2億3291万7000円となっておりますが、どこが一番ウエイトを置いているのかということと、結婚・出産・子育て環境整備事業というのは、元々ある程度行っていたと思うのですが、ここでいう前年度比とありますが、今回検討した中でどのくらい事業を投入したのかが見えづらいところがあると思いました。あとは、このようなところに力を入れていくことによって、町外の人に向けて移住促進のPRをしていくことになると思いますが、この結果、近隣の市町村と比べてどれだけ充実することが出来たのかということが見えるともっと良いのかと思いました。

(梅村委員長) 今のご指摘の中で、予算の話がありましたが、平成29年度に実施する空調機の工事費を除くと基本目標3の事業費にならないと思うのですが。

(事務局) 今のご指摘の部分についてですが、この資料4については、基本項目ごとに関わりのある全ての事業費を記載しております。事業の部分についてはあくまでも新規の取り組みや拡充した取り組みを中心に記載していますので全ての事業を掲載したものではありません。基本目標3の部分で一番大きく事業費を締めるのは、金額的には出しておりませんが、小児医療費助成となっております。この助成についてはこれまでも継続して行っておりまして、平成28年度については平成27年度と同様の対象とし、平成29年度から拡充する予定であります。実際の平成28年度分の事業費としては、1億5000万円が基本目標3の事業費2億3291万7000円に入っている状況となります。

(梅村委員長) これからこの資料4を使われるのであれば、少し分かりにくいと思います。それと、もう一つご指摘のあった他の市町村との比較につい

てですが、おそらく町民の皆さんにもわかりやすい資料は作成されると思うのですが、茅ヶ崎市の地方創生の会議に出た時に、他の市町と比較出来る資料を作ってもらっています。茅ヶ崎市のホームページで公表もされていますので参考にしていただければと思います。例えばそのようなものがあれば、町民の皆さんも寒川町の良さがわかるのではないかと思います。是非取り組んでいただければと思います。

(事務局) これまでの説明の中で、子育て環境において寒川町がどの位置にいるのか、そこは見やすいようにお知らせしたいと思います。これから予算審議等もありますので予算が承認された後に、そういった部分を他市町村と比較して公表していきたいと思います。

(前田委員) 先ほどの矢澤委員のご質問と同じかもしれないのですが、この地方創生総合戦略の中に、やはり高齢者の視点が非常に少ないと思いました。つまりこれから高齢化する中で、高齢者の活用だとか、子育てを非常に重視されているシフトになっていると思うのですが、今はダブルケアの問題などで子育てをしながら両親をみたりすることもあり、男性も女性もケアの問題が出てきているので、子育てがしやすい＝ケアをしやすい暮らしやすさに繋がってくる部分もあると思いますし、もしくは余裕のある高齢者が寒川町で次々と出てくると思うのですが、その人達が消費する場所みたいなものも、今の話の流れで言うとまだまだ弱いと感じますので、まずは優先が子育てしている家族の移住を増やして、産業を活性化させて労働人口を維持するというのがこの主眼だと思うのですが、今からこの戦略を変えて欲しいということではないのですが、総合計画などでもう少し高齢者の部分も視点に入れてマッチングさせるというか、そういった形が出てきた方が、全体として暮らしやすさに繋がると思いました。意見です。

(事務局) 我々もこの総合戦略の事業だけで効果が出るとは思っておりません。総合計画の中の一部を切り出したものになりますので、高齢者の方々の活用については当然考えていかななくてはならないと思っております。最終的のこの総合戦略を検証する中では、どこに効果があって、どこに効果が無いのか検証の観点には入れていきますので、そういった中でしっかりと検討していきたいと思います。

(梅村委員長) 続きまして基本目標4について何かございますか。

今まで外部評価委員会などでご意見を聞いた中で、地域の公共交通については様々なご意見がございました。それにつきまして、コミュニティバスのことにはありますが、この他に例えば倉見の新幹線新駅等の話もあると思いますが、それらの進捗状況としてはどうなっているのでしょうか。

(事務局) 新幹線新駅の話についてですが、現段階では地元地権者の方々に

色々な議論がある中で、寒川町としてはJRの配当が貰えるのか、貰えないのかによって大きく変わってくると思っておりますので、現在は地元地権者の方々と話し合いを詰めている状況となっております。中々方向性などが見いだせない部分もありますので、総合戦略における公共交通としての拡充の部分としては見られない状況となっております。ただ、公共交通は住民の皆様からニーズの多い部分でもありますので、我々としてはそういった部分をどう対応するかというところで、2市1町の中で湘南台行きの新規バス路線について検討を始めました。そういった中で通勤・通学など住民移動に関して今後利便性の向上が図られるよう検討を進めているところですので、そういった部分で補強していきたいと考えております。

(矢野委員) 今の新駅の話ですけれども、横浜銀行には平塚にも支店がございまして、ツインシティの大神地区は非常にきれいなポスターも出来上がっております、平塚支店でも大神地区の組合に対する協力も結構進んでいる状況でして、ツインシティに全くなっていないというのが私の感想で、そういった意味では、あまり地権者との懇談やJR東海もリニアを優先するということがあるかもしれませんが、時間的にゆっくりしたものではないのではないかと個人的には思っています。

(事務局) 平塚市の大神地区については、元々、市街化形成されていない土地ですから、その進捗と既に市街化されて住宅も張り付いている土地では、やはりその進捗が同じにすることは難しいと考えております。平塚市は進んでいるという状況については存じあげておりますが、我々も地元地権者に配慮しながらご協力していただき進めて行くものだと思っておりますので、全て同時期で同じように進めることについては正直難しいと思っております。

(豊田委員) 施策8「より快適な生活の実現に向けた交通環境の整備」というところで、意見と言うか感想なのですが、先日文教大学の学園祭にお邪魔させていただいたのですが、バス便を見た際に、湘南台ルートと茅ヶ崎ルート、それから寒川へ行くルートもあるのですが、文教大学と寒川駅を結ぶルートの本数が少なかった。私がもし学生でしたら寒川へは行きにくい、そういったことが如実に表れていました。一番行きやすいのは湘南台、次に茅ヶ崎となっているわけですけれども、その辺も含めてもう少しバス便の拡充と整備というところで、ここを太くすれば人の流れ、学生の流れ、もしかしたら寒川に住んでいただくことも考えられます。それともう一つ湘南台に向かう際に慶応大学もありますので、寒川の方が家賃が安くて、バス便が太ければ、特に県外から来られる学生は全然抵抗がないと思います。是非拡充を図っていただければと思います。

(事務局)先ほど、湘南台ルートを検討している話をさせていただきましたが、正に今検討しているルートは文教大学も絡む話でありまして、そういった中では、既存のルートにもメスを入れていかななくてはならないので、そういった部分で便数の増強が出来るかどうか検討していきたいと思っております。

(田中委員) 若者参画推進事業について、個人的にすごく興味のある事業なのですが、インターネット上のサイトを通じて会議をするということですが、今は小学生でもインターネットを使える時代で、そこで若い世代と言うのはどこをターゲットとしてイメージしているのですか。それとこの考え方はすごく良いと思うのですが、果たして若者がまちづくりに興味があるかどうかという温度差があると思うので、その辺をどう進めて行くつもりなのか考えがあれば教えて下さい。

(事務局) 我々がターゲットとしているのは、生産年齢人口の確保と将来的な人口から考えますと、現段階では、20歳から40歳くらいまでを考えています。ただ、我々も最近小中学校に呼ばれまして、こんな町にしてもらいたいという子ども達から声をいただいている部分もあります。そういった年代からも意見がありますので悩みまして今後再検討する必要があると思っております。そうしたこれからの時代を担う子ども達が寒川に居続けて、住み続けてもらうことが必要なことですので、そういった声も聞いていくことは必要なのではないかと考えておりますのでどう反映させるか考えていかななくてはならないと思います。それと、全員会議というのは、寒川町に色々なご意見をお寄せいただくためには、そういった高齢層だとか自治会などに集まりやすい方々は我々も声が聞きやすいというところがあるのですが、実際は、お勤めをしながら行政に声を届ける機会がない方々などから、多くの声をいただきたいという中で、インターネットを使い会議が出来るだとか、協働の観点からパブリックコメントなどを行ってもの中々ご意見などをいただけない時もありまして、今あるものを使えば色々な年齢層から意見がいただけるのではないかと思いますので、そういった部分で平成28年度中に仕組みを構築するように検討していきたいと考えております。

(鈴木委員) まちづくり活動への若い世代の参加ということで、先ほど新幹線新駅の話がありましたが、私は新幹線新駅まちづくり協議会の副会長をやっているのですが、そこで会議を開催しても我々よりも年配の方がほとんどで、中々若い方の意見が聞けません。出てきている方のお子さんやお孫さんがある程度の年齢にいつているので、家庭での意見を聞かさせてもらいたいといっても返事がいただけません。先ほど新駅の話が停滞している

との意見もございましたが、こういった会議でも意見がいただけない状況ですのでどうにかならないかなと思っております。

(事務局) 時代を担う方々の意見を言う場がなく、難しいということもありますので、インターネットなどを使用することで意見募集がしやすくなるということもあると思いますので、そういったものをうまく活用して、色々な意見が貰えるような仕組みを作っていければと思っています。限定して何かをやるのではなくて、いろんな所で使えるような仕組みを作りたいと思います。

(梅村委員長) 他にありませんか。それでは議題 (1) については以上とさせていただきます。

#### ○その他

(梅村委員長) 続きまして3「その他」でございますが事務局から何かございますか。

(事務局) 事務局より1点、次回の当委員会の開催予定について、事務連絡をさせていただきます。次回の当委員会は、平成27年度より実施している「先行型事業」の検証をお願いする予定でございます。平成28年6月から7月の開催を想定しております。検証につきましては、今年度終了後、町内部においてK P I の達成率を中心に効果の検証・課題分析を行う予定でございますので、その内部での検証内容について委員の皆様にご審議いただくとともにご意見を賜りたいと考えております。日程は決まり次第、改めてご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上になります。

(梅村委員長) 以上で本日の議事は全て終了しましたので、事務局にお返しします。

(事務局) 本日は、長時間にわたり、ご意見等をいただきまして、誠にありがとうございました。委員長をはじめ、各委員の皆様のご協力に感謝申し上げます。本日賜りました貴重なご意見等については、今後の最終的な取りまとめ作業の中でできる限り反映させてまいりたいと思いますので、今後ともご協力お願い申し上げます。また、平成27年度中の当委員会については、本日をもって最後となります。委員の皆様におかれましては、当町の総合戦略策定にあたり、お忙しい中、ご協力を賜り誠にありがとうございました。来年度につきましても、先程若干説明をさせていただきましたが、今年度より実施しております「地方創生先行型」事業の「検証」をはじめ、来年度より実施する当戦略事業の進行管理を当委員会にてお願いすることになりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い

	<p>いたします。最後になりますが、ここで、寒川町副町長の木内より一言御礼を申し上げます。</p> <p>(木内副町長) 〈お礼のあいさつ〉</p> <p>(事務局) これを持ちまして、平成27年度第4回(仮称)寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会を終了とさせていただきます。有り難うございました。</p> <p>○閉会</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料1: 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)</p> <p>資料2: 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略～アクションプラン～</p> <p>資料3: 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 体系図</p> <p>資料4: 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策別事業費の概要</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>佐藤 清(平成28年3月23日確定)</p>